

山村代官屋敷(木曽郡木曽町福島)

山村家は江戸時代木曽谷の徳川直轄地支配を任された木曽代官で、福島関所の関守を兼ねていました。現存しているのは下屋敷の一部と庭園のみであるが、建物内には山村家の文化資料、著書、調度品などを展示しています。

木曽町公式サイトより

江戸時代を通して木曽を治めた山村代官

山村氏は戦国大名木曽氏の旧臣で、慶長5年、関ヶ原の戦いでの功勞により木曽代官を命ぜられ同時に福島関所を預かりました。以来明治維新まで木曽11宿をふくむ木曽一帯を治めました。途中尾張藩に属し石高七千五百石に白木五千駄福島関所の関守として幕府から旗本の一種、交替寄合の待遇を許されていました。当時の屋敷図に見る壮大な屋敷構えは島崎藤村の「夜明け前」に活写されていますが、現存するのは、当時の御下屋敷の一部で、1723年に再建された12代良○(よしたか)公の書斎「看雨山房(かんうさんぼう)」の書院づくりの座敷を中心とした『城陽亭』とその庭園、本邸の石垣の一部です

現地案内書より



